

辰年生まれの作家

明けましておめでとうございます。
令和6年の干支は「辰」。辰年生まれで有名な作家の一人に芥川龍之介がいます。辰年辰月辰刻に生まれたため「龍之介」と名づけられたとか。そこで、辰年生まれの日本の作家とその作品をピックアップしてご紹介します。

1868年(明治元年) 生まれ

尾崎紅葉 『金色夜叉』、『二人女房』

1892年(明治25年) 生まれ

芥川龍之介 『羅生門』、『河童』

1904年(明治37年) 生まれ

堀辰雄 『風立ちぬ』、『美しい村』

1928年(昭和3年) 生まれ

田辺聖子 『ジョゼと虎と魚たち』



2024年 1月 開館予定表

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

…開館日 …閉館日(館内整理日・学内行事日等) …休館日

開館時間…9:00~17:00 臨時の休館・時間変更等はHP等でお知らせします。

附属図書館オリジナル Web 香川短大HP→附属図書館→附属図書館オリジナルWeb

<http://lib.kjc.ac.jp/csp/carin/hp/CARhpTOP.csp>

1940年(S15年)

田島征三

『ふきまんぶく』
『とべバツタ』



『たべるぞたべるぞ』
佼成出版社

1952年(S27年)

村上龍

『限りなく透明に近いブルー』
『13歳のハローワーク』



『ユチューバー』
幻冬舎

1964年(S39年)

村山由佳

『星々の舟』
『風よ、あらしよ』



『二人キリ』
集英社

1976年(S51年)

川上未映子

『乳と卵』
『夏物語』



『黄色い家』
中央公論新社

1988年(S63年)

古川真人

『背高泡立草』
『縫わんばならん』



『ギフトライフ』
新潮社

2000年(H12年)

青羽悠

『星に願いを、そして手を』
『凧に溺れる』



『幾千年の声を聞く』
中央公論新社

図書館サークル

ブックハンティングで
購入した本

『とんび』
重松清
913.6/SH



2012年にNHK、2013年にはTBSでドラマ化した作品！そして、2022年には映画化もしています。ドラマや映画をきっかけに読むのもおすすめです。不器用でまっすぐな父のヤスさんと成長していく息子アキラの物語。人情味あふれる、瀬戸内海の小さな街での「家族」の温もりが心に残ります。
経営情報科 情報ビジネス2年 河田芽子

『認知バイアス』を知っていますか？A型だから几帳面とは限らないし、「大きな地震でも自分は大丈夫」ではないかもしれません。この本は身近な認知バイアスを具体例や図を使って分かりやすく解説しており、自分の中に潜む偏った考え方や先入観に気づかせてくれる貴重な一冊です。
経営情報科 情報ビジネス2年 谷川実優



『情報を正しく選択するための認知バイアス事典～世界と自分の見え方を変える「60の心のクセ」のトリセツ～』
情報文化研究所
141.51/JY

『カモさんの
かわいいパネルシアター』
376.156/KA



幼稚園や保育園で大活躍のパネルシアターが、うた、おはなし、保育生活の3つのテーマで、たっぷり26作品紹介されています。人気曲や劇の定番、生活習慣など、保育の現場で子どもたちへのさまざまな導入に使えるので、役立つこと間違いなしの1冊です。
子ども学科 第1部2年 山本陽子